東輝

みどり市立大間々東中学校
学　校　通　信
令和４年５月２３日　第５号

大東中生として、一人一人がどのような生徒であってほしいかを考えると、たくさんの視点が思い浮かびます。学校教育目標にある「学力の向上」や「心身のたくましさ」、「主体性」の育成はもちろんですが、世界や日本の情勢がこれだけダイナミックに、そして刻々と変わっている時代に、学校は何をどのように考え、教育活動を行う必要があるのかが問われている気がします。そんな中、学校では時折、独り言のように、大東中生としてのありたい姿について、ある立場の人間がつぶやく時間があります。まれに生徒からリアクションがありますが、学校は子どもたちにこんなことを伝えている、ということをあまりお知らせしていませんので、今号をつくりました。以下は、過日行われた全校集会で触れた内容（大東中生としての「ありたい自分」）の一部を、表現を変えて掲載するものです。エッセイのような文章で申し訳ありませんが、時にはこのような表現の通信があってもいいと思い、発信します。

＜自律＞

現時点では中学生ですが、将来は一人一人の生徒が社会の中で自立して生活できるようにしていく必要があります。そのための学校の機能として生徒指導や進路指導などが行われますが、最終的に目指すところは「自己指導能力」の育成と言われます。そういった考えからも、発達段階に応じて「他律」から「自律」、そして「自立」へと段階的に進んでいけるよう、意識を高めていく必要があると思っています。また、「自律」は全てに関わることなので、これまでも折に触れて「自分で自分をよりよい方向に導く」「自分の命令者は自分」といった話をしてきました。人から言われて動くのではなく、正しい判断ができるということを前提に、自律的に行動できる生徒を増やしていきたいと思います。

＜貢献＞

わかりやすい例は職業ですが、社会はお互いの貢献で成り立っている側面が大きく、それぞれが役割を果たすことで全体が回ることにつながっています。学校生活の中でも、お互いに支え合っていることを自覚し、周囲に対して貢献しようとする意識が醸成されれば、よりよい雰囲気の学校になっていくのではないかと考えています。また、「Ｇｉｖｅ＆Ｔａｋｅ」という言葉は、なぜＧｉｖｅが先なのか、という話を耳にすることがあります。Ｔａｋｅばかり考えていると、最終的には幸せな気持ちにはなれない、ということなのかもしれません。

＜感謝＞

当たり前と思っているものが、実はとても有り難い、ということを私たちは忘れがちです。「貢献」とも深く関わっていますが、実は周囲からのたくさんの恩恵にあずかりながら私たちは生活しています。だから「ありがとう」という言葉が、「不自然さなく」飛び交う学校になれば、と思います。感謝は意外と難しいものですが、一人一人が傲慢にならないためにも、有り難いという感覚を大切にできる生徒であってほしいと思います。

＜挑戦＞

昨年度から、何度か「後悔」について話をしました。高齢者の方に聞くと、人生で最も後悔することの一つとして挙げられるのは「失敗したこと」よりも「挑戦しなかったこと」だという話です。「チャンスの神様に後ろ髪はない」という言葉もありますが、「失敗してもいいから若い時に、もっとたくさんのことに挑戦しておけばよかった」という気持ちを抱かなくて済むよう、働き掛けを続けていく必要があると思っています。失敗を恐れず、前を向いて、そして自分が納得のいく時間の使い方ができるよう、背中を押していきたいと思います。

＜実行＞

頭の中でとても素晴らしいアイディアやプランを考えていても、実行に移さないと変化にはつながりません。そういった意味でも、まずは実行に移すことはとても重要なことではないかと思います。そして、実際にやってみて上手くいかなかったら、方法を修正していけばいいのではないかと思います。ＰＣやスマホも、常に「アップデート」を重ねているのは、改善し続けるシステムを機能させるためです。実行することで上手くいかない部分が浮き彫りになり、改善の視点が明確になります。「思い立ったが吉日」という言葉のとおり、まずは実行することが重要であり、実行することでしか見えてこないものがあることも知る必要があると思います。

（裏面に続く）

＜ 克 己 ＞

人間が１日に消費するエネルギーのうち、20～25％程度が脳で消費されるそうです。脳は重さの割には、非常にたくさんのエネルギーを消費する臓器ということになります。そして、たくさんのエネルギーを消費する臓器であるが故に、いざという時に備えるという理由からも、できるだけ無駄なエネルギーを使わないようになっているそうです。つまり、脳は基本的に難しいことや大変なことを避ける仕組みになっているということです。そう考えると、人が易きに流れたくなるのは当然であり、自然なことです。しかし、「挑戦」とも関わりますが、そのままでいいかということについては、もちろん考えていく必要があります。易きに流れないようにするために必要な意識、つまり「克己心」をもつことや、自分の適性に合った努力を継続する習慣を身に付けることが、やはり自己実現へつながっていくのかもしれません。

＜ 調 和 ＞

一人ではできないことでも、力を合わせれば成し遂げられるものもたくさんあります。世の中を見ても「連携」「協力」「コラボ」「協働」といった言葉が頻繁に使われています。学校も集団生活を送る場として、周囲との調和が求められる場面がたくさんあります。いつまで経っても争いごとの絶えない世界ですが、学校という場での社会生活を通して、いかに合意形成を図り、どのように社会の一員として行動するかを学ぶことが、その後の子どもたちの人生のプラスに作用するようにできるといいのではないかと思っています。